



第313号・2021年8月1日発行

ジェーンズ邸の再建と同志社

情報・写真提供：同志社校友会理事、熊本県支部元支部長木下智夫氏

文責：同志社ファンを増やす会・多田 直彦

<はじめに>

今号の内容は2021年7月10日の小原克博先生による「熊本バンド」の講義の後に、震災後のホットな情報をお知らせしようと熊本県支部の木下智夫氏からご報告いただいたものです。本文は、それを要約したものです。

概要は、熊本洋学校の教師・ジェーンズが住んでいた住居が、【平成28年熊本地震】によって倒壊しましたが、そもそもどのような建物だったのか、同志社はどのように関わったのか、再建は、どうなっているのか、等についてであります。

* * *

・熊本バンドの偉大さ

小原先生は講義の中で熊本バンドを「宣教師のラーネッドは、同志社の源流の一つ」と紹介された。それは「新島襄」「アメリカン・ボード」「熊本バンド」の3つが合流して同志社が生まれたという例えです。また、『熊本バンド研究』（同志社大学人文科学研究所編・みすず書房、1965年）の冒頭で住谷悦治先生は「熊本バンドの輸血」の中で、熊本バンドは、まだ弱体だった同志社にとって「輸血」だったと評しておられる。

・館の名称

ジェーンズ邸とは、熊本洋学校の教師 L.L.ジェーンズとその家族が住まいした住居です。しかし、入り口にある案内版は、熊本県教育委員会が建てたものですが、「洋学校教師館」となっています。



なぜ、洋学校教師館と呼ぶのだろうか？ その理由はジェーンズが住むと決まらない前に洋学校の教師用住居として建築を始めていたからです。なお、「熊本洋学校教師ジェーンズ邸」という呼称は、熊本市が管理した昭和45年からのことです。

また、熊本県指定重要文化財、と書かれていることにも注目していただきたい。

・熊本洋学校の創設経緯

ここで熊本洋学校を創るに至った経緯をご紹介します。当時、肥後は、他の藩に比べ、明治維新が立ち遅れているとの危機意識がありました。その遅れを何とか挽回しようと横井小楠の甥である太平が、文化で特色を出そうと学校設立を提案しました。そのためには、教師は外国人であるべきとして、恩師のフルベッキを通じて、外国人の教師を探してもらっていました。そのためには教師の住居が必要となるので、建築を教師捜しと並行して進めていたのです。

・本格的洋風建築



教師館は、本格的な洋風建築で、バルコニー付きの二階建てであった。そのため洋風建築の腕前を持つ棟梁・辰吉と大工 5 名を長崎から呼び寄せ、まだ一般的で無かったガラスは長崎から取り寄せました。

建築途上に着任したジェーンズは、暖炉とその煙突を希望し、追加されて完成した。

テラスの柱には欄間のような透かし彫りが添えられ、とてもオシャレな風采で完成した。

この本格的な洋風の建物であったので明治 10 年の西南戦争の時、有栖川宮の宿舎になった。また、同じ年に日本赤十字社の前身である「博愛社」の設立は、ここで認可されたのです。そのことからここが日本赤十字社の記念館になった。その後、日露戦争の時、ロシア人将校の捕虜収容所にも使われた。

現在の場所には、昭和 48 年に熊本市によって移設、管理されている。

・なぜ、県指定の重要文化財なのか

最初に建てられたのは古城（ふるしろ）という熊本城近くの場所であったが、県庁の移転、新築等により建物は解体して、2 度移転している。その後も水前寺公園内に移築された。移設移築に伴う部材や瓦などはそのまま使われた。その状況から熊本県は重要文化財と指定したのである。しかし、そのことは、耐震性や構造強化に行き届かない面があり、今回の【平成 28 年熊本地震】によって、このように倒壊したのであります。



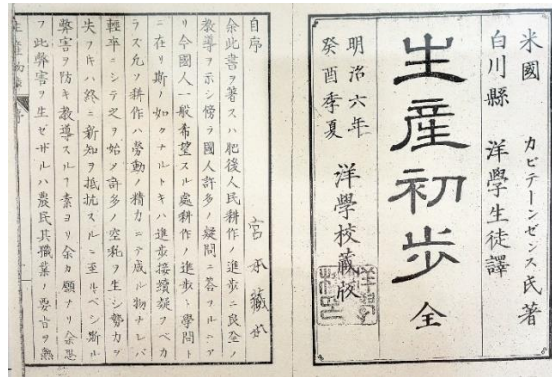
・主人公の L.L.ジェーンズ(1837～1909)



ここで熊本洋学校の教師 L.L.ジェーンズについて見ておこう。我々同志社人はジェーンズを熊本洋学校の教師であること、多くの卒業生が同志社に学び、卒業後、大活躍したことなどについては知っている。言い換えれば、その側面しか知らないのです。

しかし、ジェーンズの地元熊本の評価は違っています。

実は、熊本の近代化に大きく貢献していたのです。男女共学を始めたこと、農業改善のためにテキスト『生産初步』が作られ、印刷機を輸入したことから熊本に印刷が普及した。生徒の壊血病を見て食の改善を提案したことなどが挙げられます。



・「ジェーンズの会」発足

このようなジェーンズの功績を風化させないで、将来に伝えていこうと、2010年に「ジェーンズの会」が熊本で発足。発起人は熊本大学名誉教授の岩井善太氏(同志社岩倉卒)らで、そこに当時同志社校友会熊本県支部長であった木下智夫氏も誘われ、幹部の一員となっている。

会の事業は、会誌の発行、ホームページでの情報提供。ジェーンズについての研究と支援。記念日の行事開催。ジェーンズ邸の保存活用などである。従って、震災後、日本イコモスが調査に来たときも会の一員として立ち合っている。

・熊本洋学校と同志社とのつながり

熊本洋学校が廃校になり、同志社が学生を受け入れたことは周知の通りです。それ以外の熊本でのつながりを見ていきます。それは、花岡山の山頂で1949年から継続して「早天祈祷会」が行われています。そこにある「奉教之碑」(徳富蘇峰揮毫)は、学校法人同志社として1968年同志社創立90周年を記念して建立したのです。周辺の草刈りは同志社



人などが現在も行っている。

また、2016年には、記念地の補強改修が熊本草葉町教会の創立130年記念行事として行われたが、同志社校友会は援助を行っています。最近の行事では「同志社フェア in 熊本」があります。全国から300名を超える人が集まったが、その準備、運営に力を貸したのは、同志社校友会熊本県支部です。集まった同志社人は「ジェーンズ邸」も見学したが、その75日後に熊本地震で倒壊したのです。倒壊前に見ることができたことは、奇跡のようです。

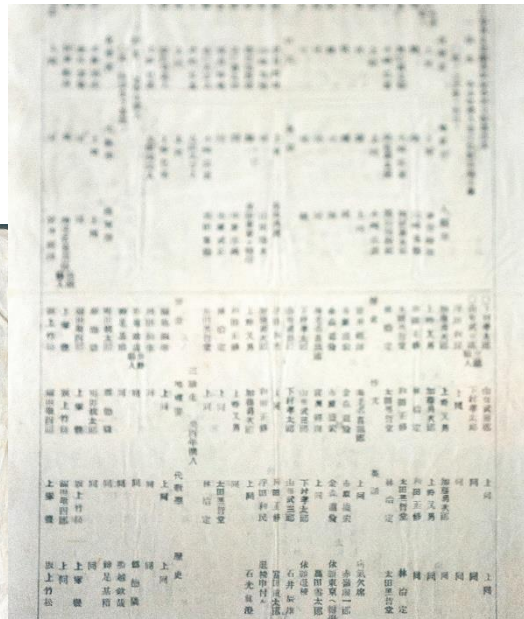
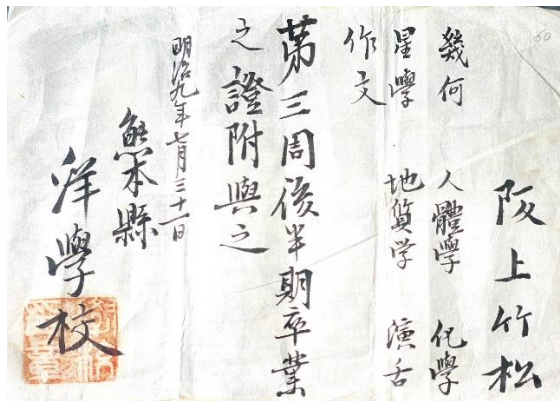
地震の後、ジェーンズ邸を心配した同志社人らは、風雨から資材や史料を保護するために、テントの調達に奔走し、3社から寄贈をいただき、カバーして保護しました。その後もカビないようにとテントの上げ下ろしをしての風を通す作業にも駆けつけていました。



同志社校友会の理事会が熊本地震後の5月に開かれた。その会議で「校友会で支援できることは無いか」との話になり、当時、理事であった木下智夫氏は、ジェーンズ邸にあった重要資料の保管とクリーニングの費用1200万円の負担を提案した。そこで目標額を1500万円と決め、理事会全会一致で募金が採択された。その理事会には本日のZOOM講座にご出席の宮本利亮氏もご賛同いただいたとのこと。感激です。すぐさま海外支部を含め各支部で募金活動が開始された。目標の1500万円は満額達成された。ここに2ドルの精神が息づいていたと思いました。そして、平成30年(2018年)に熊本市に寄贈され、感謝状をいただいている。

・ジェーンズ邸にあった貴重な史料とは

それは、倒壊前ガラスケースに大切に展示されていました。その一例ですが「奉教趣意書」(オリジナルは同志社大学に)、半期卒業証書、白川新聞の個人別履修内容の記事などがありました。なお、同志社関係以外に日本赤十字社関係の資料もあったようです。



・ジェーンズ邸の再建に向けて

国からの復興支援金制度も整い、移築先も近くの元市体育館跡地が候補に決まるなど熊本市のジェーンズ邸再建方針を議会に説明したのは、2017年(平成29年)11月議会でありました。その方針のポイントは、重要文化財としての質を保ちながら、かつ耐震性のあるものを再建することである。そのため建築中でも風雨から守られるように工事現場全体を覆って工事が進められた。古い材木には、ナンバーを打ち、傷のある箇所は修復し、創建当初の材料を7割から8割を使った。

このような状況から専門家は、完成時には国の重要文化財に指定されるであろうとの見解を示しました。耐震性のためには、基礎に鉄筋を入れなど補強がなされた。そして、2022年度中の完成に向けて、着々と工事は進められているようです。



【移転先 全景】
マットスラブ(基礎部分)配筋中です。



【既存木材保管場所 木材補修】
できる限り既存の木材を再使用し、当初の建物の姿を復元できるよう取り組んでいます。



・同志社の各地の行事などは、校友会の各支部の力添えで

今回のように熊本に於ける花岡山の山頂での「早天祈祷会」やジェーンズ邸にあった資料収集など再建は、熊本県支部の皆さんのお力添えがありました。直近の「The Doshisha Times」によると、「東華学校遺址碑」碑前祭は宮城県支部が中心に挙行されています。

同じように、東京支部は生誕の地碑・碑前祭を、大磯の終焉の地碑の碑前祭は神奈川県支部。風間浦の寄港地碑の碑前祭は青森県支部。海老名弾正の碑の碑前祭は福岡県の久留米クラブが中心に運営。と各地支部・クラブが支えている。このことは京都にある学校法人同志社では、手が届きにくい地元の情報、地元の関係、準備などそれぞれの地域でしか得られないものが多いことの証でしょう。

また、2025 募金についても各県支部の力は欠かせない。このような活動を通じて、同志社校友会の組織力を更に高めていきたいものです。